2012年2月発行

［オーバー・ザ・レインボー］

Over the Rainbow

Vol. 10

大阪教育大学 国際センターニュース

TOPICS

Voice
後期修了・卒業留学生のメッセージ

平成23(2011)年度日本留学フェア
タイ・ラジャパット大学を水害慰問
第２回国際センターシンポジウム
奨学金授与式
秋のホームビジット体験
門松づくり体験
柏原市人権推進課・留学生講演
秋季日本文化研修～淡路島方面
第６回かしわら国際交流フェスティバル
短期研修プログラム
アメリカ語学研修・カブール教育大学・ソウル教育大学

留学生後援会入会のお知らせ

写真：2011年10月
秋季日本文化研修（淡路島）にて

巻頭言：

グローバル人材と「内なる国際化」

大阪教育大学　理事　成山　治彦

巻頭言

グローバル人材と「内なる国際化」

大阪教育大学　理事　　成山　治彦

私は高校で国際教養科を担任したことがある。そのクラスには中国帰国生徒と海外帰国生徒が数人いた。中国帰国生徒は、母親がいわゆる先の戦争での中国残留者で、中国籍の父親らと日本に「帰って」きた生徒だ。日中の懸け橋になりたいと願いつつも、日本人生徒の欧米優位の価値観に違和感を覚え、孤立感に涙していた。一方海外帰国生徒は親が企業の海外駐在員だが事情は一様ではない。現地校で学びながら現地の文化や習慣、自己の体験などについて語ることを嫌い、ねたみによるいじめや排斥を恐れてか、極端に日本人社会に溶け込もうとする生徒もいた。その姿は悲しく切なかった。逆にアジアの日本人学校で学んだ生徒の中には現地の人々に対する優越感や見下しが感じられる生徒も見受けられた。「世界の中の日本」がどういう位置にあるかが考えさせられた。

その他にも、クラスには在日韓国人の生徒も数人いて、ずっと日本名の生徒、入学式のときに本名で生活すると変更を申し出た生徒、中学校まで本名だったのに日本名に変更した生徒と様々だった。そこには日本社会で生活する在日韓国人の家族が置かれてきた状況や日本社会を生きていく上での考え方の差異がある。

今、学生の「内向き」が懸念され、世界で羽ばたくグローバル人材の育成を求める声が大きい。しかし、その内実を探ると、国際大競争の時代に勝ち抜くことを最優先する考え方も根強い。本当にそれだけでいいのだろうか。フクシマを経験した今、「世界の中の日本」が果たすべき役割について、今一度冷静な議論が求められるところだ。国際間に横たわる諸課題について、平和や人権の擁護、諸民族の対等互恵に沿ってものを考えることができるかどうか、真摯に日本社会にとっての「内なる国際化」に向き合っているかどうかを抜きにグローバル人材の育成も語れないのではないのかと思うのである。

JAPAN EDUCATION FAIR 2011 ～ TAIWAN, KOREA, INDONESIA, MALAYSIA

台湾

韓国

Report: Japan Education Fair 2011

インドネシア（下左）
マレーシア（下右）

平成 23 (2011) 年度日本留学フェア

～台湾・韓国・インドネシア・マレーシア～

今年度も 7 月～ 12 月にかけて，日本学生支援機構主催による「日本留学フェア」に参加しました。本フェアは日本への留学を希望する高校生・大学生等を対象として世界各国主要都市で毎年開催されており、今年度は台湾，韓国，インドネシア，マレーシアの 4 カ国に参加し，日本留学を希望する多くの学生に大阪教育大学をＰＲしました。

≪本学ブース訪問者数≫

台湾（高雄・台北）　7 月 23-24 日開催 … 108 名
韓国（ソウル・釜山）9 月 17-18 日開催 … 107 名
インドネシア（スラバヤ・ジャカルタ）
　10 月 08-09 日開催 … 187 名
マレーシア（クアラルンプール）
　12 月 10-11 日開催 …　39 名

4 カ国 7 会場を通して計４４１名のフェア参加者が本学ブースを訪れ，熱心な眼差しで担当教員の説明に耳を傾けていました。

タイ・ラジャパット大学を水害慰問

昨年 10 月の水害時の様子
（プラナコンスィーアユタヤ・ラジャパット大学）

長尾彰夫学長ら本学関係者は１月７日に，昨年タイ王国で発生した大規模水害によって被害を受けた本学協定校であるプラナコンスィーアユタヤ・ラジャパット大学（在アユタヤ）及びスアンスナンター・ラジャパット大学（在バンコク）を慰問し，被災学生及び大学に対して義捐金を渡しました。

長尾学長は「東日本大震災では海外からの支援が日本人の心の支えになった。わずかな金額だが，これまでの友情の証として受け取ってもらいたい。互いに支えあう気持ちを大切に，今後とも交流を促進し，友情を深めたい」と挨拶し，被災学生及び大学関係者を励ましました。

本学からは長尾彰夫学長の他，向井康比己国際センター長，吉田憲市学術連携課国際係長，京都教育大学からは安東茂樹理事，佐々木真理准教授が訪問し，本学からは義捐金 42 万円を手渡しました。この義捐金は，本学教職員有志による寄付の他に，柏原ライオンズクラブ，大学生協，大阪教育大学留学生後援会からの寄付も含まれています。

＜写真解説＞①義捐金授与の様子。（写真上） ②パソコンや周辺機器をボートで運び出す職員。長引く洪水で建物１階部分は全て浸水した。（写真下右）。③水に浸かるアユタヤ遺跡。（写真下中）④限られた環境で勉学に励むラジャパット大学の学生たち。（写真下左）

第2回国際センターシンポジウム

留学で広がる可能性ー大阪教育大学から世界へ飛び立つー

第２回国際センターシンポジウム「留学で広がる可能ー大阪教育大学から世界へ飛び立つー」を十二月二一日（水），柏原キャンパスで開催しました。シンポジウムは４部構成で行われ，このうち，午前中のセミナーI「留学の意義」，セミナーII「留学のもたらすもの」では，国際センター教員や在学生の留学体験談を交えながら，留学がどのように仕事に結びつくか，カルチャーショックの先に得られるものなどが具体的に話し合われました。

午後のシンポジウムI「留学や海外実習プログラムの教育的成果」では，本学の協定校 University of North Carolina Wilmington の Dr. Brad Walker，広島大学大学院の朝倉淳教授が，それぞれの大学で実施している海外研修プログラムについて，研修に参加した学生が国際的な視野を身につけ，成長を遂げていく様子を具体的に語りました。さらに，本学卒業生で，アメリカの大学でアカデミックカウンセラーとして働いた経験がある潮崎泰子氏が，自身の留学体験やアメリカの大学の学生に対するサポートシステムについて紹介しました。

シンポジウムII「グローバル時代に求められる社会人基礎力とは」では，パナソニックのコーポレートコミュニケーション本部社会文化グループの小川理子氏が，次世代の育成事業や学校への出前授業などの社会貢献の取り組みについて講演しました。また，本学卒業生の東條さおり氏（豊中市立第十三中学校）と堀井美里佳氏（名古屋市立舟方小学校），本学在学生の杉山雄大さん（教員養成課程総合認識系）が，教育現場での実践や留学・海外実習について発表し，海外での経験が確かな社会人基礎力を培い，さらに教師として次世代の子どもたちの育成に貢献していることを報告しました。

最後に，向井康比己国際センター長が「留学や海外体験を通して人は様々な面で成長し，将来の可能性が広がることを理解して頂けたと思います。多くの皆さんが世界に飛び立っていくことを祈念しています」と締めくくりました。参加者からは，「留学がもたらす経験は貴重であると再確認した。この経験が日本を支える力となる」「留学への志が強くなった」などの感想が寄せられました。国際センターでは，今後もこのような取り組みを継続して行う予定です。

＜写真解説＞①留学がもたらす可能性について熱心に聞き入る聴講者たち。（写真左）②この日のためにアメリカから来日し、参加者に留学の教育的成果について熱く語るブラッド・ウォーカー博士（写真右）

Message from OKU international students

特別聴講学生(学部)
イ・ジョンギョン（韓国）

李庭暻
留学生

みなさんのおかげでいい思い出ができました！
ありがとうございます！
お世話になりました♡

特別聴講学生(学部)
イ・イエボン（韓国）

李禮本
交換留学生

ここにきてほんとによかった！
学食堂もおいしい！

国際センターもやさしい！☺ ♥
友だちみんないい人！
…でも私かえる
もどりたくない；A；
めっちゃめっちゃ
たのしい時間だった♥

特別聴講学生(学部)
ジャン・ソンウン（韓国）

張聖恩
交換留学生

半年間の留学生活！
後悔ない，
ただ，さびしい気持ちだけ(プリ)
半年，短すぎ・O・

特別聴講学生(大学院)
マシュー・ハスケット（アメリカ）

マシュー・ハスケット
特別聴講学生

教育大学について…
やはいのし，うんどう，
げんきしょくどう，ねこ，
しんせつ，おおさかべん…
一番好きですよ！

特別聴講学生(大学院)
オウ・ハクキン（台湾）

王　柏鈞

大阪に留学しに来ることは素晴らしい経験だと思う。
最初、ホームシックが有ったけれども、すぐ元気になった。

いろいろ学びました、言語だけでなく、日本人の考え方も、日本文化も。

また先生達と国際係り達もたくさんヘルプしてくださいました。大教大のお陰で、自分の夢も実現してしまいました。

誠にありがとうございます。

特別聴講学生(大学院)
シン・カク（中国）

濯佳駒
英語教育専攻

皆様、ありがとございます!!
日本は一番好きです!!
加油!!

教員研修留学生
バドゲレル・バトドルジ（モンゴル）

BATGEREL BATDORJ
バトゲレル　バトドルジ
教員研修留学生

大阪にすごした1年半は人間として多くの事を学び，交流が出来た時期になったと思います。
大阪教育大学の先生方，友達にまことにありがとうございました。
皆さん一緒にがんばりましょう!!

教員研修留学生
クリスティーナ・ウィルソン（フィジー）

CLAUDETTE WILSON

THANK YOU SO MUCH FOR YOUR KIND ASSISTANCE AND FOR ALL THE EVENTS ORGANISED. I HAVE LEARNT A LOT MORE ABOUT JAPAN AND ITS CULTURE…
I HAVE MADE A LOT OF FRIENDS HERE AT OKU. AND I REALLY ENJOYED THE COMPANY AND FRIENDSHIP OF FRIENDS.
THANK YOU TO ALL MY SENSEE'S TUTORS AND FRIENDS!
MAY GOD BLESS YOU ALL!!

大学院
リュウ・コクタン（中国）

劉 克端
教育学研究科
総合基礎科学専攻

大阪教育大学の留学生活の日々を振り返ると、語り尽くせない思い出がいっぱいです。楽しい時も辛い時もあってから、思い出のある大学生活です。最後に私達を親切で温かく見守ってくださっている姓や留学生係の皆様に感謝したいです。

大学院
ムフタルジャン・クルバン（中国）

ムフタルジャン・クルバン
学校教育専攻
心理学コース

2年間とても短いでした。最っとい左分た左です。このやさしい大教大は何年後私の日本に対する思い出になるかも。大教大のすべてを覚えってりきたりです。

学部
リン・ギョウセイ（中国）

林 暁静
教養学科B次健生専攻
健康方向コース

目標を立て、目標を実現するための努力をし、後悔なしの大学生活を満喫できた。最高の留学生活だった。

学部　リ・シュッカ（中国）

李 淑霞
教養学科 生活環境コース

4年間お世話になった先生方に感謝しています。
4年間の大学生活はとても楽しかった。そろそろおわりですが、一生のいい思い出になると思います。

学部　チョウ・エイナン（中国）

趙 永南
教養学科 文化研究専攻
社会文化 コース

4年間の大学生活は、楽しかったり、つらかったり多彩だったなぁ～。
国際センターの先生達がいて、本当に助かたと思う。

学部　ムン・ユウビン（韓国）

文 有彬
教養学科自然研究・生命科学 コース

今まで本当にお世話になりました!!
みなさんのおかげさまで楽しい4年間の大学生活を送ることができました。ありがとうございます!!

学部　ソン・カウン（韓国）

孫 佳垠（ソン カウン）
教養学科
生活環境コース

大阪教育大学に入って、いい人に出会い、自分がしたい勉強もしながら充実な大学生活を送ることができました。大阪教育大学での4年間は一生忘れられないいい思い出になったと思います。
ありがとうございました！

奨学金贈呈式 | 大阪教育大学留学生後援会

大阪教育大学留学生後援会奨学金等贈呈式が 12 月 7 日（水），柏原キャンパスで行われ，私費外国人留学生に奨学金が授与されました。

後援会奨学金を受け取った学部１回生の朴ヘミンさん（韓国）は，「まず、奨学金をくださってありがとうございます。奨学金を無駄遣いしないようにそして、もっと勉強がスムーズにできるように頑張りたいと思っています。団体の皆さまへの感謝の気持ちを込めて日本にいる間、様々な方面で努力し、大学卒業後も日本で活躍できるようにしたいです。」と感謝の気持ちとともに、今後の目標を綴りました。

留学生後援会は，留学生への経済的支援，地域との国際交流の促進を目的として，地域の支援団体及び本学教職員等により構成された組織で，平成 15 年度から毎年，留学生に対し奨学金を授与しています。今年度は，寄付団体名を冠した奨学金 4 人，留学生後援会 7 人，大阪柏原ロータリークラブ教育支援金 4 人の計 15 人に奨学金を授与しました。

留学生後援会では，今後もこの制度の拡充を目指し支援の和が広がるよう努めていきます。

秋のホームビジット体験 | グローバル香芝

2011 年 11 月 19 日（土）グローバル香芝様主催による秋のホストファミリープログラムが開催されました。希望者殺到のなか、今年度は渡日後間もない留学生２１名が日本人家庭にご招待いただきました。

初めての経験という学生も多く、会場到着後、皆緊張の面持ちでファミリーの到着を待っていました。マッチング当初こそ落ち着かなかったものの、ひとたびファミリーと対面し、挨拶を終えた留学生の表情はたちまち和らいで、会場中が笑顔に包まれました。

約１時間程度の全体交流会が終わり、いよいよホストファミリーの御宅訪問へ！留学生にとっては我々の「何気ない日常」が「かけがえのない日本文化」となります。翌日、ホームステイを終えた留学生からは「楽しかった！」「嬉しかった！」など、感謝の気持ちが次々とこぼれました。

ホストファミリープログラム参加者の感想

・呉　云ソウ（交換留学生・中国出身）

（一部抜粋）ホストファミリーは一日しかありませんが、そのおかげで結んだ縁が長くあると信じます。日常の日本家庭生活を見せていただいて、とても感動しました。

・ルベナ・ダナ（日本語日本文化研修留学生・ラトビア出身）

（一部抜粋）今回のプログラムはとてもよく準備されました。最初は話しかけるのがちょっと難しかったので、あまりしゃべりませんでした。でも、色々なゲームする間にすぐ仲良くなって、お互い嬉しかったです。

門松づくり | シニア自然大学校

12 月 21 日（水）、シニア自然大学校の皆さまの主催により、今年度も年末の日本文化体験とし「門松づくり」を開催していただきました。

日本のお正月の伝統飾りである門松作りに挑戦した２６名の留学生たち。門松について説明を聞いたあと、皆様のアドバイスにしたがって一生懸命自分たちの門松を作り上げました。文化はちがっても新たな一年の幸福と健康を祈る気持ちは万国共通なのでしょう。美しく仕上がった門松を手に微笑む留学生たちは、新しい年に向けた想いで輝いてみえました。

留学生講演 | 柏原市人権推進課

柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座、「異文化の暮らしを学習しよう」では、本学の留学生が講師を担当しています。2011 年 11 月 9 日 (水) には、モンゴル出身の教員研修留学生、バトゲレル・バトドルジ（通称ドルジ）さんが母国について紹介しました。ドルジさんは、母国では中学・高校の社会科の現職教員です。

日本国内でもメディア等を通じて少しずつ知られるようになってきたモンゴルですが、一般の人々の暮らしについてはまだ知られていないことが数多くあります。ドルジさんは、モンゴル相撲、馬頭琴、民族の祭典である「ナーダム」、独特な発声の「ホーミー」、「オルティンドー」という民謡等の伝統文化や、遊牧民族の暮らしと首都ウランバートルでの生活の違いなど、一つずつ丁寧に説明しました。

聴講された市民の皆様からは「知っているようで知らなかったことがたくさんあった」「モンゴルのことが新たにわかり、とてもよかった」等、様々なご感想を頂戴しました。毎回の講座を楽しみにしておられる方も多いということで、地域に根ざした国際交流の取り組みとして、今後も継続したいと考えています。

秋季日本文化研修

淡路島を巡る
淡路夢舞台⇒吹き戻しの里⇒北淡震災記念公園

平成２３年１０月２２日（土）、秋季日本文化研修として淡路島へ行きました。本研修は平成２３年度後期の新入留学生歓迎行事を兼ねたものです。新入留学生３４人を含む８３名（留学生および留学生チューター，引率教職員を含む）でのにぎやかな旅となりました。

午前は淡路夢舞台を訪れ，日本が誇る建築家・安藤忠雄氏設計の植物園を見学しました。午後からは吹き戻しの里で吹き戻し作りを体験し，その後北淡震災記念公園で阪神淡路大震災について学習しました。新入生は在校生と積極的に交流を図り，大教大の新しい一員としてスタートをきりました。また，本研修には，本学の協定校であるタイ・ラジャパット大学（タイＲＵ）からの短期受入留学生８名も参加しました。

（写真上２枚）
吹き戻し体験の様子
（写真中上）
北淡震災記念公園内
（写真中下）昼食の様子
〔手前右、朱蝶さん〕
（写真下２枚）
淡路夢舞台にて

事前講義で向井先生と若生先生の話を聞いてワクワクしてきました。当日は天候が優れず、雨も降ってきましたが、私達の気持ちは抑えられなかったです。最初、夢舞台に行きました。本当に夢しか見れない所で、とても素敵だと思いました。色々な見たこともない植物を見て、写真も撮りました。夢舞台で夢の世界に入り、感動していました。

一番おもしろかったのは吹き戻しの工場に行って、吹き戻しのおもちゃを作ったことです。社長さんは本当に面白かったです。６ 個作って友達にお土産であげました。

最後に、北淡震災記念公園に行って、地震の怖さをしみじみ感じました。地震模擬体験で、震度７の揺れを初めて体験して、みんな「怖い、怖い」と言いました。当時の人々はどれだけ怖かったのか、想像しても想像できません。

帰りに玉ねぎを買い、戻りました。今回の研修は本当に楽しかったです。

（朱　蝶／人間科学専攻１回生・中国出身）

第６回 かしわら国際交流フェスティバル

つながろう，柏原から世界へ！

大阪教育大学と柏原市との共催による「第６回かしわら国際交流フェスティバルーつながろう，柏原から世界へ！ー」を 11 月３日（木・祝）に柏原キャンパスで開催しました。前回に引き続き神霜祭と同時開催となり，本学留学生，学生，一般市民を合わせ 650 人が参加し，大勢の人で盛り上がりました。

今年度は，歌・踊りを披露するステージ，各国料理の提供，各国の文化紹介をするふれあいテーブルと ３ つのイベントを同時進行で実施しました。

かしわら国際交流フェスティバルは，大阪教育大学と柏原市のさらなる国際化を推進するため，本学留学生と市民との交流を図り，異文化理解，国際理解に寄与することを目的としており，来年度は５月に開催する予定です。

短期研修プログラム
語学留学・受入研修

国際センターでは年間をとおして短期語学文化研修留学プログラムおよび協定大学の学生に対する短期受入研修プログラムを実施しています。今年度はアメリカ・韓国・オーストラリア・タイ・台湾の各協定大学で語学文化研修が開催され、本学からも多くの学生が参加しました。また、受入研修としてはカブール教育大学（アフガニスタン）およびソウル教育大学からの学生を受入れ、学生の専攻に即した研修プログラムを実施しました。

アメリカ語学研修

平成 23 年 8 月 22 日 (月) ～ 9 月 25 日 (日)

黒田　裕太
教養学科 3 回生
文化研究専攻欧米言語文化コース英語圏

私は語学研修として 1 ヶ月間、アメリカのノースカロライナ大学ウィルミントン校 (UNCW) に留学させていただきました。私にとって、海外の学校に通い、生活するというのが初めての経験だったので、出発前は言語面や生活面で少し不安でした。しかし実際に行ってみると毎日をフルに活用しているようで、いろいろなことを学び本当に充実した 1 ヶ月を過ごすことができました。　今回良かったと思うことは、多くの友達ができた中でもアメリカ人の友達だけでなく自分たちと同じ留学生たちとの交流もたくさんできたことです。言語面でも初めは周りに圧倒されましたが、日が経つにつれてだんだんと慣れてきて、ある程度のコミュニケーションができるようになり、お互いの文化などを知ることができました。友達の家でのホームパーティに呼んでもらったり、ビーチに遊びに行ったりとすべての経験が「学び」のような 1 ヶ月だったと思います。

ソウル教育大学　グローバルインターンシッププログラム受入

平成 24 年 1 月 16 日 (月) ～ 2 月 12 日 (日)

協定校であるソウル教育大学の学生 10 名が本学を訪れ、インターンシップ研修プログラムに参加しました。同プログラムは日本の教員養成事情に対する知識を習得するとともに，大阪府内の小学校で観察実習主体のインターンシップを行いキャンパスでの学びだけではなく，学んだ知識を現場で体験・活用することによって多文化共生・国際理解教育を初めとする実践力を身につけることを目的として実施されました。

学生は本学教員から日本の教員養成に関するさまざまな講義を受けたあと，公立小学校へ教育実習へ参加しました。

2 月 10 日に修了式が行われ、約 1 ヶ月におよぶプログラムを終えました。ソウル教育大学の学生たちは，今回の訪問を通じて，本学学生と交流を深めるとともに，日本の教育制度や社会・文化についても理解を深めていました。

「アフガニスタン教員養成支援事業 ー教育を通じた国際貢献」による短期研修

国際貢献の一環として，今年度も交流協定締結校の一つであるアフガニスタン・イスラム共和国のカブール教育大学の講師 1 名の研修を行いました。

今回の研修は，3 月に採用されたばかりのﾌｧﾋﾏ･ｲﾌﾞﾗﾋﾑｷﾙ (Fahima Ibrahimkhil) 講師 (視覚障がい教育) を対象に，平成 23 年 11 月 14 日から 12 月 10 日までの約 1 ヶ月間にわたって，国際センターと特別支援教育講座の連携のもとに実施しました。

研修プログラムでは，視覚障がい教育に関する講義や大学院特別支援教育専攻学生ゼミの参加，本学で学ぶ障がい学生との交流，大阪府市内の視覚障がい者を教育する特別支援学校や視覚障がい児童生徒が学んでいる通常学校の見学，附属池田小学校で行われた JICA 研修（アフリカ地域教師教育）の見学を行いました。

また，12 月 7 日にはファヒマ講師が今回の研修で学んだことを帰国後，どのように活かしていくのかをまとめたアクションプランの報告会を実施しました。

留学生後援会入会のご案内

☆会員募集中☆
留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。ご関心をお持ちの皆様は、ぜひご加入下さい。

★会費・納入方法★
一般会員…学内職員
・一口1,000円/月、または一括・給与から天引き
特別会員…学外支援者
・振込
任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい
ゆうちょ銀行ぱるる
記号:14120　番号:96618321
名義:大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）
三菱東京UFJ銀行　藤井寺支店
普通預金　口座番号:5210211
名義:大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクコウエンカイ）
・現金納入

★連 絡 先★
大阪教育大学留学生後援会　東・吉田
電話: 072-978-3351, 3300
E-mail: ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

Over the Rainbow
年2回発行　第10号　平成24年2月1日(木)発行
編集・発行: 大阪教育大学国際センター
〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1
http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/
連絡先
電　話: 072-978-3300 FAX:072-978-3348
メール: isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp